

USCPA 試験の採点方法（2017年4月以降）

（注）当資料は、以下の AICPA 公表資料を基に作成しております。

2017年4月現在

http://www.aicpa.org/becomeacpa/cpaexam/psychometricsandscoreing/scoringinformation/downloadabledocuments/how_the_cpa_exam_is_scored.pdf

USCPA 試験はどのように採点されているのか？

各科目の合格点は75点ですが、採点されない問題もあり、難しくなるほど合格となる試験だといわれています。

USCPA 試験の採点システムを理解する上で重要なのが下記の2点です。

● Pretest Questions（採点されない問題）

MC テストレットおよび TBS/WC テストレットのいずれにも、採点されない Pretest Question が含まれています。

受験者には、採点の対象となる問題と、採点されない問題の区別はつきません。

<参考>採点されない Pretest Question は、統計データを集めるために出題されています。Pretest Questions のうち、一定の基準を満たした一部の問題については将来的に採点される問題として出題される可能性があります。

<MC テストレット>

各科目計 12 問 が採点されない問題です。

<TBS/WC テストレット>

FAR・REG・AUD では TBS8 問中1問、BEC では TBS4 問中1問 が採点されない問題です。

また、BEC では WC 3 問中1問 が採点されない問題です。

Overview of the CPA Exam by Section

Section（科目）	FAR	BEC	REG	AUD
試験時間	4 時間	4 時間	4 時間	4 時間
Multiple Choice				
テストレット数	2	2	2	2
採点対象の問題数	54	50	64	60
採点されない問題数	12	12	12	12
MC 問題合計	66	62	76	72
Task-Based Simulation				
テストレット数	3	2	3	3
採点対象の問題数	7	3	7	7
採点されない問題数	1	1	1	1
TBS 問題合計	8	4	8	8
Written Communication				
テストレット数		1		
採点対象の問題数		2		
採点されない問題数		1		
WC 問題合計		3		

■講師コメント■「TBS 問題では、とれるところを確実にとり、部分点を狙え！」

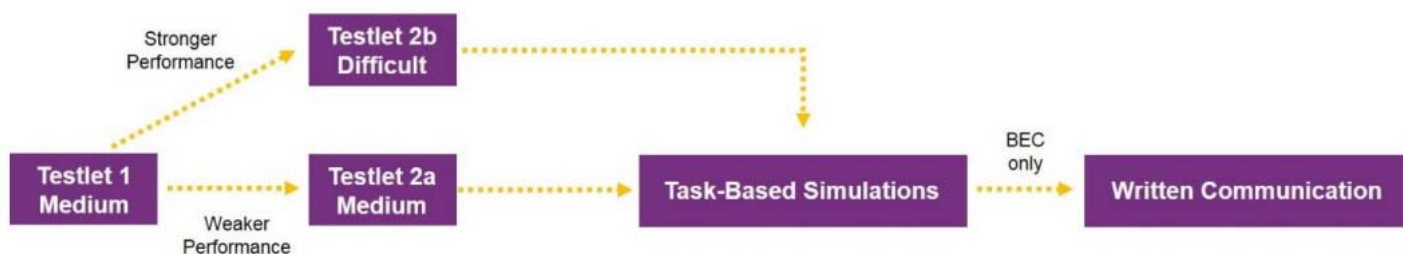
TBS 問題については、たとえ採点対象の問題であっても、各問において入力及要求されている項目すべてが均等に得点に反映されているとは考えにくいです。とれるところを確実にとり、部分点を狙っていきましょう。

● Difficulty Varies (MC テストレットの難易度の変化)

全4科目において、MC テストレット×2という構成となっています。最初のテストレットの出来具合で、次のMC テストレットの難易度が変わってきます。

- ※ MC テストレットには、“Medium”と“Difficult”の2種類あります。“Difficult”のテストレットは、すべての問題の難易度が高いというわけではなく、“Medium”に比べると難易度の高い問題が多く含まれることを意味します。
- ※ 最初のMC テストレット (Testlet 1) は、常に“Medium”のテストレットが与えられます。
- ※ TBS/WC テストレットは、MC テストレットの出来具合に関わらず、事前に用意された問題が出題されます。TBS/WC テストレットにおける出題問題の難易度は「運」もあると言えるが、とれるところを確実にとり、部分点を狙っていきましょう。
- ※ 出題形式に関わりなく、採点の際にはスケール・スコアが用いられ、正答率だけではなく、過去の統計データに基づく各問題の難易度を考慮した採点が行われています。難易度が高い問題には、高い配点がなされていると考えてください。

CPA Examination Testlet Selection



上図のように、Testlet1は常に“Medium”＝中程度の難易度のテストレットが出題され、その出来が悪いとTestlet 2も中程度のテストレット、一方、出来が良ければTestlet 2では“Difficult”＝難易度が高めのテストレットが出題されてくるとい仕組みです。確実に合格するには、できるだけ“Difficult”レベル（難易度高め）のテストレットに進む必要があります。“Medium”レベルのテストレットでは過去問ベースの問題が出題される印象を持たれる方が多いようです。それに対して、“Difficult”レベルのテストレットでは基礎知識の応用力が問われてくる傾向があるようです。

■講師コメント■「間違った問題数にとらわれる必要はない！」

前述のような仕組みがとられていますので、「合否は蓋をあけてみるまでは分からない」と強く言えるのがU.S.CPA試験です。難しく出来なかった印象がある科目こそ合格している可能性が高いといえます。受験～合否結果を待つ間に、難しい印象を持った科目から復習を始めなきゃ！と思われると思いますが、あえて別の科目から復習を始めるようにしてください。

よくあるご質問 FAQ

ここまでで触れていない質問についての回答を記載しております。

Q1：Written Communication はどのように採点されているのでしょうか？

A1：ほとんどの場合、コンピュータ採点プログラムによる自動採点后、人の手で調整が行われています。合計得点が合格点に近い場合には、必ず人の手で再採点が行われます。1つの答案に対し複数の採点者が異なる得点を与えた場合、平均点が採用されます。

Q2：計2つのMCテストレットの出来が良ければ、合格できますか？

A2：いいえ。TBS/WC問題に対する配点が50%と大きいため、合格できません。TBS/WC問題についてもしっかりと準備して試験に臨まれることをお勧めします。

Q3：最初のMCテストレット（Testlet 1）で出来が悪かった場合でも、合格できますか？

A3：はい。MC問題（50%）については、Testlet 2の出来が良ければ、十分に合格できます。

Q4：どのように各問題の難易度（Medium/Difficult）を決定しているのでしょうか？

A4：これまでの受験者の正答率等を基に分析し、問題ごとに難易度を決定しています。問題の難易度はその質ではなく、統計に基づく数値で決定されています。